

「こおりやまの米」通信



GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「お米の日」



令和7年1月

編集:郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (TEL. 024-921-0503)

NOSAI福島中央支所 (TEL. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 024-935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課 TEL. 024-924-3761)

毎月8日は「こおりやま「お米の日」」
豊かな自然と気候に恵まれた、県内一の
米どころである郡山の美味しいお米を
食べましょう！

Vol. 8 令和6年産最終号 (生育調査ほ場の結果)

こおりやまの米通信

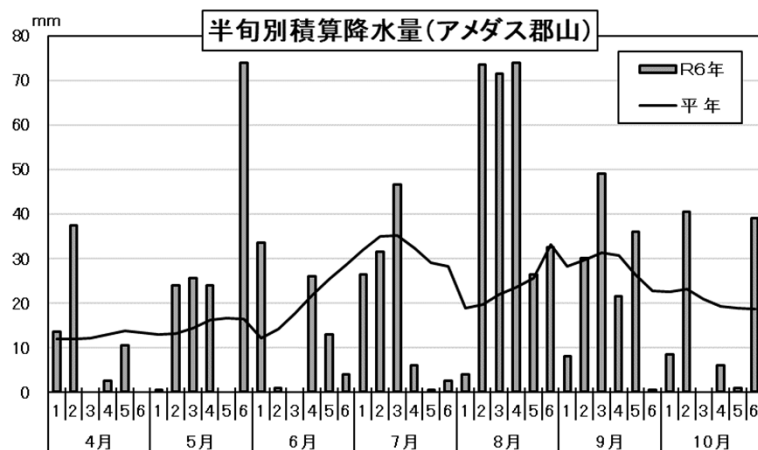
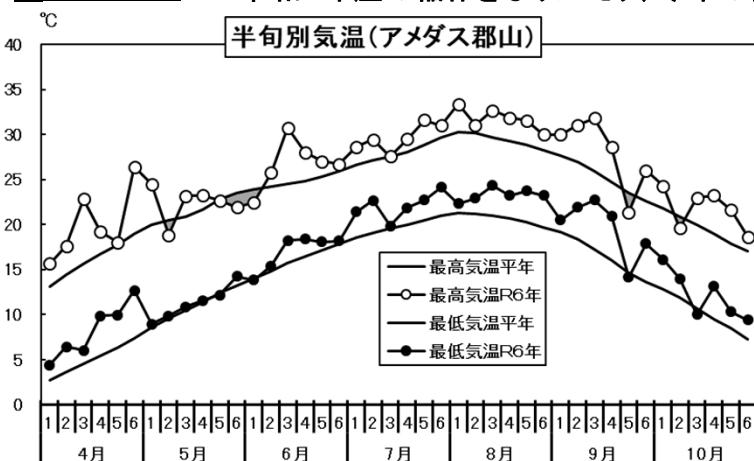
検索



*最新及び過去の記事は、郡山市ウェブサイトから見るができます。

1 気象経過

令和6年産の稲作をふりかえり、今年の作付けに備えてください



2 生育概況

【4月中旬～(育苗期)】

出芽が安定し苗立枯病の発生は少なかったが、高温によりもみ枯細菌病の発生が一部で見られた。

【5月(移植期)】

平年並みの気温で推移し、活着や初期生育は良好であった。

【6月(分けつ期)】

平年よりも気温は高く、良好な活着と併せ茎数は平年並み～やや多くなった。一部のほ場では、表層剥離や異常還元が発生し生育が抑制された。

【7月(最高分けつ期～幼穂形成期)】

旺盛な生育により窒素の吸収が進み、土壌中の無機態窒素濃度が低下し葉色は淡く推移した。

気温が高く推移し、幼穂形成期は平年に比べ4～8日早まった。

【8月(出穂期)】

気温が高く推移し、出穂期は平年より4～6日程度早まった。㎡当たり穂数はほ場によりバラツキはあるが、平年並み～やや少ない。

また、斑点米カメムシ類の発生が多かった。

【8～9月(登熟期～成熟期)】

出穂後の日平均気温は、平坦部では26℃以上で推移し、白未熟粒や胴割粒の発生が懸念された。標高の高い湖南地域では26℃以下で推移した。

登熟期間の高温により登熟日数は平年に比べ5日程度短縮し、出穂期の前進とあわせ成熟期は平年に比べ10日程度早まった。稈長は平年並みで、コシヒカリを中心に一部で倒伏が見られた。

生育が旺盛であったため、紋枯病は平年よりやや多かった。葉いもちの発生は高温により抑制されたため、平年より少なかったが、一部のほ場では穂いもちの発生が散見された。

3 収量・品質

収量について、ほ場によりバラツキはあるが、千粒重は重く、平年より多収であった。

品質について、JA福島さくらの検査結果では、11月28日時点の1等米比率は88%(前年度78%)であった。2等米以下に格付けされた主な理由は、カメムシ類による着色粒が多かった。登熟期間の気温は昨年並みに高温で推移したが、各生産者の高温対策の取組や降水量が多かったことなどにより、白未熟粒の発生は令和5年産米より少なかった。

4 生育調査ほの収量と収量構成要素

品種 (地区)	年次	穂数 (本/m ²)	籾数/m ² (×100粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)
コシヒカリ (田村)	R6	365	250	84.1	22.4	571
	平年	347	286	85.3	21.9	659
コシヒカリ (三穂田)	R6	404	305	87.7	23.1	649
	平年	413	326	78.6	21.9	599
天のつぶ (三穂田)	R6	463	356	91.8	23.5	772
	平年	418	347	89.2	22.6	743
ひとめぼれ (熱海)	R6	418	325	85.0	22.5	599
	平年	321	217	86.2	22.5	486
里山のつぶ (湖南)	R6	441	317	85.7	23.8	800
	平年	444	371	85.8	23.5	814
コシヒカリ (富久山)	R6	298	314	85.3	22.5	570
	平年	295	305	81.8	21.8	544
ふくひびき (喜久田)	R6	301	287	84.7	24.0	682
	直近3ヶ年	347	368	76.1	23.5	723
ひとめぼれ (喜久田)	R6	381	243	92.3	23.0	716
	平年	425	303	83.7	22.6	647
天のつぶ 直播(日和田)	R6	361	357	74.9	22.2	655
	平年	451	368	82.0	22.3	652
コシヒカリ (日和田)	R6	316	287	81.6	22.0	623
	平年	411	363	75.4	21.3	607

精玄米重は50株刈り取りから算出した。m²当たり籾数や登熟歩合は3株調査ですので一致しない場合があります。

5 令和7年の稲作に向けて

(1) 土づくり等による高温対策

高温等の気候変動に負けない稲作に向け、土づくりで根の活力を増進するためのポイントは以下のとおりです。

◎根の活力増進

秋耕、堆肥施用、心土破碎や深耕 など

◎生育後半まで光合成が維持される施肥管理

堆肥やケイ酸資材の施用、出穂期の追肥 など

◎生育期間中の水管理

適期の中干し、出穂期以降の飽水管理 など

(2) 病害対策

育苗期の高温により、もみ枯細菌病が増加傾向です。温度管理の徹底や苗箱処理剤などで防除してください。また、紋枯病が多発したほ場では、薬剤による防除を実施してください。

(3) 雑草対策

除草剤散布後のヒエ等が残るほ場が散見されますので、後期剤などで対処してください。

(4) 放射性セシウムの吸収抑制対策

土壌のカリ含量を維持することが重要です(目標25mg/乾土100g)。カリ含量低下が懸念される砂質土壌やわら持ち出し田では、カリ肥料の上乗せや堆肥投入を検討してください。

農業機械の点検整備について

整備不良の農業機械は事故の原因になるだけでなく、農繁期の故障は作業日程の遅れにもつながります。トラクターなどの点検、整備を実施してください。

令和6年9月は、全国で44件の死傷事故が発生しました。特にコンバインによる死亡事故が多かったため、乗用型の農業機械を操作する際は、周囲の安全確認をお願いします。

「みどり認定」の紹介

「みどりの食料システム法」に基づき、化学肥料・農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度「みどり認定」がスタートしています。

設備投資の際の税制優遇や様々な国庫補助金の採択で優遇されるなどのメリットがあります。エコファーマーの取組を継続する方も、「みどり認定」を申請する必要があります。

詳しくは、県中農林事務所農業振興普及部に御相談ください。



〈県HP〉

需要に応じた米生産にご協力をお願いします

令和6年産は米価が回復しましたが、引き続き米価の安定のため、需要に応じた米生産に御協力をお願いします。

【転換作物の例】

- ①大豆、そばなどの畑作物、園芸作物等
- ②飼料用米、備蓄米、加工用米、輸出用米

【交付金の制度活用】

転換作物に取り組む場合は、水田活用の直接支払交付金や畑作物の直接支払交付金(ゲタ対策)などの様々な制度が活用できます。

【飼料用米は多収品種で取り組む】

飼料用米に取り組む場合、一般品種では令和6年産以降、交付単価が段階的に引き下げられます。収入確保のため、「ふくひびき」などの多収品種で取り組むことが有効です。

収入保険制度について

加入には青色申告の実績が必要なため、白色申告の方は令和7年3月15日までに税務署に「青色申告承認申請書」を提出し、青色申告に切り替えてください。問い合わせ先

青色申告・・・郡山税務署 ☎932-2041
申告支援・・・JA福島さくら各支店・営農経済センター
収入保険・・・NOSAI福島中央支所 ☎933-3307